

## 小児がん地域計画書

### 【地域連携システムの構築と推進】

「小児がん中国・四国ネットワーク」の設立（図1参照，合計17施設）

拠点病院：広島大学病院

連携病院（小児がん診療病院）：

鳥取県：鳥取大学医学部附属病院

島根県：島根大学医学部附属病院

岡山県：岡山大学病院，川崎医科大学附属病院，岡山医療センター，  
倉敷中央病院

広島県：広島赤十字・原爆病院

山口県：山口大学医学部附属病院

徳島県：徳島大学病院，徳島赤十字病院

香川県：香川大学医学部附属病院，四国こどもとおとなの医療センター

愛媛県：愛媛大学医学部附属病院，愛媛県立中央病院

高知県：高知大学医学部附属病院，高知医療センター

図1



「小児がん中国・四国ネットワーク」は広島大学病院（拠点病院）を中心に中国・四国ブロック内の小児がん診療病院（連携病院）間でネットワークを形成し、診療連携と人材育成の観点からさまざまな協力、連携体制を構築する。患者さんとその家族に対して、中国・四国ブロックのいずれの地域においても最新かつ最適医療が提供できるように、あらゆる情報の発信とその共有が出来るシステムを活用し、小児・思春期がん診療の均てん化を行う。各県の医療機関、行政（がん対策関連部署）ならびに患者・家族が中心となった患者会が一体となり、診断時から切れ目なく長期フォローアップまでの安心・納得した医療が持続的に提供できる体制の推進とその検証を行う。

#### 【地域連携】

- 具体的な疾患及び病態に関して、中国・四国ブロック拠点病院と連携病院の現状と目標、役割分担（表参照）

- ブロック外の拠点病院及び小児がん診療病院との連携（表参照）

中国・四国ブロックは近畿ブロック、九州ブロックと隣接することから、交通の便からこれらのブロックでの治療を希望される場合がある。特に兵庫県、大阪府、福岡県のブロック拠点病院とは密接な連携体制を構築する。

・ブロック内で対応できない疾患、病態への対応

造血器腫瘍・固形腫瘍：一部の難治再発例や造血細胞移植症例は近畿・九州ブロックの拠点病院など（兵庫県立こども病院、大阪府立母子保健総合医療センター、九州大学病院、九州がんセンターなど）と連携する。特に香川県・徳島県・高知県では非血縁同種骨髄移植や臍帯血移植の実施可能施設が限定されているため、難治再発例の診療は近畿ブロックの拠点病院（大阪府立母子保健総合医療センターなど）とも連携する。

網膜芽細胞腫：国立がん研究センター中央病院で局所療法を実施する。

高精度放射線治療（陽子線、重粒子線等）が必要な疾患では兵庫県立粒子線医療センターでの陽子線治療、九州国際重粒子線がん治療センター（サガハイマツト）への紹介とその連携を考慮する。

- 連携の具体的方法

（現状）電話・手紙・メールを用いた連絡手段により、必要時に患者情報の共有を行っている。

(計画・目標) インターネットを用いたテレビ会議システムによりがんセンターボードを設置し、定期的に患者情報の共有を行う。新規症例の診断・治療、難治/再発症例への対応について検討する。紹介・逆紹介後も同様の方法で連絡を取る。相談支援体制、療養体制などについて定期的議論を行う。

1. テレビ会議システムを利用した「小児がん中国・四国ネットワーク会議」の定期的開催(月1回の予定)

第1回: 2013年7月22日(図2・3参照)

小児がん中国・四国ネットワーク会議会則

テレビ会議システム利用規約, 申し合わせ

地域連携の現状と今後の計画及び目標

ネットワークで協議する事項

- (1) 各県の連携病院を含めた小児がん患者の診療状況, 診療体制の把握に関する事項
- (2) 各県の連携病院を含めた小児がん治療における特徴と難治/再発症例に関する事項
- (3) 各県の連携病院を含めた長期フォローアップ体制の把握および晩期障害を含めたフォローアップ体制の統一と対応に関する事項
- (4) 各県の連携病院における地域協力病院との連携体制に関する事項
- (5) 人材育成に関する事項
- (6) 新規症例を含めた小児がん登録に関する事項
- (7) 各県における患者会, 家族会との交流に関する事項
- (8) 各県の行政との連携体制に関する事項
- (9) その他, 中国・四国ブロックにおける小児がん診療に関する事項

第2回: 2013年8月20日

中国・四国地域小児がん医療・支援に係る計画の策定

小児がん拠点病院と小児がん診療病院との役割分担

地域ブロック外の拠点病院及び小児がん診療病院との連携

今後の会議開催と検討内容

第3回: 2013年9月25日(予定)

難治症例の検討(予定)

図2

小児がん中国・四国  
ネットワーク会議

第1回開催 平成25年7月22日

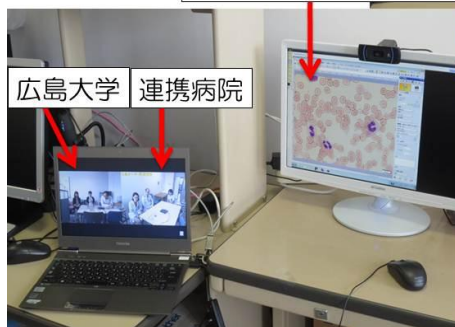


図3

中国・四国ブロックの小児がん  
診療連携病院間にインターネット  
会議システムを導入



顕微鏡画像などの共有



多職種での小児がんカンファレンスの実施  
患者情報の共有  
フォローアップ体制の情報交換  
相談支援体制の情報交換など  
↓  
小児がん診療における連携体制の強化

2. 「中国・四国小児がん研究会」の開催：年1回（2014年1月11日開催予定）

3. 各種研究会，勉強会での連携

- ・小児血液フォーラム in OKAYAMA（毎年1月）
- ・JACLS/CCLSG 合同セミナー（毎年7月）
- ・小児白血病カンファレンス in OKAYAMA（毎年8月）
- ・せとうち小児がんセミナー（毎年10月）

● 地域連携を進めるための取り組み

(現状) 地域内施設の小児がん医療従事者を集めた定期的な症例検討会・勉強会を開催している(年3回開催)。小児がん患者の紹介及び逆紹介人数は各施設が個別に把握している。

(計画・目標) 地域内施設の小児がん医療従事者を集めた定期的な症例検討会・勉強会を開催する(中国・四国、九州の一部を含む地区の小児がん治療施設の小児がん医療従事者が集まる症例検討・顕鏡検討会・研究会を年3回開催)。さらにテレビ会議システムでの「小児がん中国・四国ネットワーク会議」において、新規症例、難治/再発症例に対する定期的情報交換(症例検討会)を月1回開催する。特に難治再発症例に対しては治療法の選択とその治療に対する適切な施設への紹介を考慮する。

中国・四国ブロックにおける小児がん症例の登録事業を実施：小児がん患者の紹介及び逆紹介人数を地域ブロック内で定期的に把握する。

各県、各疾患における患者会との交流状況を把握する。

全国患者会との連携、中国四国全体の患者会を設置する。

各県行政との連携を図り、各県のがん対策に係わる部署と本ネットワークとの連携を構築する。

● 地域ブロック内での長期フォローアップの仕組み

(現状) 各施設が個別に長期フォローアップを行っている。

(計画・目標) 長期フォローアップ体制の基盤整備：中国・四国ブロックでの長期フォローアップ体制の基盤事項を共有することで、連携病院内でのフォローアップ体制を構築する。長期フォローアップの基本は拠点病院、小児がん診療病院それぞれが、自施設を中心に行うが、日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG)の長期フォローアップ委員会で作成している「長期フォローアップ手帳」を活用してブロック内で統一した内容で行い、最低年に1回の受診を義務づける。広島大学病院は厚生労働科学研究「小児がん治療患者の長期フォローアップとその体制整備に関する研究」の長期フォローアップ拠点病院として活動している。

・長期フォローアップ外来を設置している病院

広島大学病院：水曜日午後外来(内分泌、循環器、産科婦人科、脳神経外科等との連携)

岡山大学病院など：夏休み等の長期休暇を利用したフォローアップ外来の設置

## 【人材育成】

各施設が個別に研修会、勉強会を実施し、人材育成を行っている。

### ● 小児がんに関する研修の実施予定

(現状) 各施設が個別に研修会を実施している。地域内施設の小児がん医療従事者を集めた定期的な症例検討会・勉強会を開催している(年3回開催)。

(計画・目標) 定期的な研修集会・症例検討会の開催に加え、テレビ会議システム利用した小児がん研修会を開催する。

- ・テレビ会議システムを利用した小児がん研修会・症例検討会(月1回)
- ・「中国・四国小児がん研究会」の開催(年1回, 2014年1月11日開催予定)
- ・その他の研修会
  - ・小児血液フォーラム in OKAYAMA (毎年1月)
  - ・JACLS/CCLSG 合同セミナー (毎年7月)
  - ・小児白血病カンファレンス in OKAYAMA (毎年8月)
  - ・せとうち小児がんセミナー (毎年10月)

### ● 拠点病院間および拠点病院と小児がん診療病院との小児がん医療従事者の人材交流の実施予定

(現状) 各施設が個別に人材交流を行っている。広島大学と山口大学では定期的に人事交流を行ってきた。

(計画・目標) ブロック内で医師、看護師、心理士などの小児がん診療に携わるスタッフの短期・長期研修を拠点病院をはじめとする日本小児血液・がん学会認定小児血液・がん専門医制度研修施設で定期的実施する。この際に小児医療全体のあり方を十分に配慮し、各大学病院との連携を行っていく。

テレビ会議システムを用いた若手診療従事者の研修会を開催する。

テレビ会議システムでの講演会、研修会を企画する。

年に数回、小児がん治療に卓越した医師(教授、准教授クラス)が17病院間を通して講演を行い、十分な質問時間を有した教育的講演会を行う。

医師のみならず、専門看護師、臨床心理士、チャイルドライフスペシャリスト、薬剤師等、それぞれの専門職も同様な研修会を企画し、ブロック内の小児がん包括医療の向上に繋げる。